



各学校における事業評価



<東学区>


学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△
			学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
4	山形北	<p><b>[地域の魅力と課題を探り、課題探究活動を推進するための体制づくり]</b></p> <p>1 「レポート作成のポイント」(1学年)                      (1) 自分の考えを伝える文章にするためのポイントを学んだ。</p> <p>2 「伝わるプレゼンテーションのコツ」                      (2学年)                      (1) ポスターセッションのポスター作成と発表の際、内容がより伝わるものにするためのコツについて解説、実際の生徒のポスターと発表を見てのアドバイスを受けた。</p> <p>3 「探究学習発表会」の講評助言(1学年)                      (1) スライド発表に対する講評並びに発表がさらにレベルアップするための助言を受けた。</p> <p>※地域の社会人等をアドバイザーとして招聘し、課題研究活動の活性化を図った。</p>	<p>○幅広い各分野の専門的なアドバイスを聴き、視野が広がった。                      ○将来の具体的なビジョンが見えてきた。(地元山形に貢献したいという声も。)                      ○表現力が向上し、自信が付いた。                      △校外で発表するところまでいかなかった。</p> <hr/> <p>○地域社会と文化を探る探究活動において、「山形」を題材に扱うことは大変良い。地元で活躍する卒業生が増えることに期待したい。                      ○自分で考えることが少ない子どもの現状から、主体的に考えることは大事であり、課題探究は大変よい取り組みである。</p>





探究学習発表会

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
5	山形工業	<p><b>[山工元気プロジェクトⅡ]</b></p> <p>1 竹チップ発酵熱を活用したシイタケ栽培</p> <p>(1) 竹チップの発酵熱を蓄熱し安定供給できるシステムの設計、試作を行った。</p> <p>(2) 高電圧印加装置を作製し、シイタケ菌を埋設した原木に電気刺激を与え、シイタケを収穫した。</p> <p>(3) 収穫したシイタケを粉碎し、小麦粉に混ぜてマカロニを製作し、マカロニポン菓子をつくった。マカロニの断面は、押し出し機のダイスを加工し、本校の校章型とした。</p> <p>(4) 商標登録したオリジナルキャラクターを改良し、この活動報告やポン菓子宣伝、学校案内等で使用した。</p> <p>2 新竹高級工業職業学校(台湾)と英語での交流活動</p> <p>(1) お互いの生徒会役員がテレビ電話(スカイプ)を使用し、情報交換を行った。</p> <p>(2) 文化祭では、テレビ電話(スカイプ)を使用し、本校の全生徒と新竹の生徒会役員とで意見交換を行った。</p>	<p>〈生徒の4月と現時点の比較アンケート(4段階)の結果より〉</p> <p>○変化が大きい項目(良好な点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この活動を通してSDGs(持続可能な開発目標)に取り組む意欲が高まった。(+1.0)</li> <li>活動を通して「聴く力・話す力」が身に付いた。(+0.9)</li> <li>仲間を信じて「チームで取り組む力」が身に着いた。(+0.8)</li> <li>組織、チームにおいて「自分の役割、自己の強み」を明確にできた。(+0.8)</li> <li>この活動を通して「地域とのかかわり」が強まった。(+0.8)</li> <li>「文化の違いを理解し、異国の人々を思いやる心」が身についた。(+0.8)</li> </ul> <p>△変化が小さい項目(課題が残る点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新竹(台湾)との交流事業で「英語力」が向上した。(+0.3)</li> <li>「工業人、エンジニアとして達成感や喜び」を感じることができた。(+0.5)</li> </ul> <p>○工業地域の新竹市(台湾)の高校生と英語で交流することにより、技術者として英語での会話が必要であることを実感できる。</p> <p>○東北芸術工科大学、山形県発明協会、地元企業等、数多くの大人と関わり学校では得られない経験ができたことで生徒の大きな成長がみられた。</p> <p>○県立図書館イベントやマイプロジェクトアワードにおいて、多くの一般の方々に活動報告をすることで、プレゼンテーション能力が向上したと感じる。</p> <p>△文化祭や各種イベント等で活動報告を行ったり、近隣の地域行事や幼稚園等でポン菓子を振る舞ったりして、多くの方々に喜んでいただいたが、生徒は大きな達成感や喜びを感じていない。</p> <p>△台湾との交流事業では、英会話で交流した生徒が、生徒会や一部の部活動の生徒に限られていた。交流の場面を増やし、多くの生徒が英語で会話できるよう検討してほしい。</p>
			
		雷シイタケの栽培	マカロニポン菓子の振舞い

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
9	天 童	<p><b>[地域と共生する天高生]</b></p> <p>1 プランターへの花の植栽と通学路等への設置  (1) 1年次生全員によるプランターへの花の植栽  (2) P T A環境整備部による指導補助</p> <p>2 天童夏まつり「花笠パレード」への参加</p>	<p>○プランター植栽活動について本校 P T A環境整備部の協力を得て計画どおり実施できた。参加した1年次生の事前・事後アンケートでは数値の向上が見られた。(事前：前向きに取組みたい 56.0%、事後：前向きに取組んだ 72.2%)</p> <p>○天童夏まつり花笠パレードでは3回連続で最優秀賞を受賞した。</p> <p>△プランター植栽活動と天童夏まつり参加のみでは、主体的に貢献する生徒の育成には不十分であると感じている。生徒が主体的に、かつ年間を通して様々な活動に参加するような取組みも必要である。</p> <p>○地域行事に地元の高校生が参加することは地域の活性化につながり、とても良い。</p> <p>○公民館と連携した活動も見られ、とてもありがたい。</p>
			 <p>プランター植栽活動</p>
14	左 沢	<p><b>[みんなで「学び」、みんなで「働き」、みんなで「いきる」]</b></p> <p>1 被災地ボランティアとしての花植え活動  (農業体験での成果を社会還元する)</p> <p>2 全校ボランティア活動</p>	<p>○農業(産業社会と人間)の学習で生徒が育てた花苗を、宮城県山元町の被災地で植栽するという活動を通じて、被災地の復興支援という形での自己有用感を得ることができている。このことは、1年次生徒対象の評価アンケート項目「本校に通うことは、自分にとって意味(自信と誇り)が持てる。」での(①よくあてはまる+②ややあてはまる)の合計が、79.4%に達していることからもうかがえる。</p> <p>○被災地を実際に訪ねて行ったボランティア活動については、防災意識の高揚や社会貢献活動の意義を現実に体験することができ、生徒自身のキャリア形成に大きく役立っている。1年の進路希望調査においても第1回(5月)から第3回(1月)に進むにつれ、より具体的な目標を掲げられる生徒の割合が明らかに増加し、進路意識の高揚が見とれる。</p> <p>○全校で取り組んだボランティア活動については、「地域」とのつながりを意識して、社会貢献活動の意義を実感することができた。生徒自身のキャリア形成にも大きく役立っている。</p> <p>○意義のある活動であり、今後も継続的にお願いしたい。</p> <p>○令和元年度実施の保護者へのアンケートにおいて、「本校は、保護者や地域社会に信頼されている。」という項目で、(①よくあてはまる+②ややあてはまる)の合計が、1年94.2%、2年84.4%、3年81.1%に達しており、おおむね良好な評価を頂いている。</p>
		 <p>植栽作業</p>	

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△
			学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
10	山 辺	<p><b>[食と健康、暮らしを豊かにする人材育成～山辺町と共にあゆむ学校づくり～]</b></p> <p>1 食育活動  (1) 近江地区子ども料理教室  (2) 県学校食育推進フォーラム  (3) 食育出前講座（相模小学校）</p> <p>2 読み聞かせ活動  布遊具と布絵本の作製及び幼稚園での使用と寄贈</p> <p>3 地域との連携による活動  (1) ふれあいお茶のみサロンへの参加協力  (2) 高齢者料理教室  (3) 単身高齢者への弁当提供  (4) かたりべの会参加  (5) 単身高齢者宅訪問  (6) 学校見学会  （体験授業での中学生の指導）  (7) やまがた健康フェアへの参加  (8) 施設のお祭り等への参加  (9) 山辺町介護者激励会への参加  (10) 山辺町地域食堂への参加協力</p> <p>4 6次産業の推進  (1) 開発食品のPR活動  (2) 地元食材を使った食品開発研究  (3) 在来野菜の研究  (4) 庄内浜文化伝道師による食育講座の実施</p>	<p>○幼児や小学生を含め幅広い方々を対象とする食育活動をとおり、わかりやすい食育教材の考案をはじめとして生徒が主体的に取り組むことにより、食や健康に関する専門的学習に広がりや深まりが生まれた。</p> <p>○世代を超えた幅広い方々との触れ合いにより、生徒の視野を広めるとともに、コミュニケーション力や社会性を高めることができた。</p> <p>○地域と連携し、嚆下体操の普及についても積極的に取り組むことができた。地域の福祉問題に対して、自分にできることを考えながら活動する姿が見られた。</p> <p>○専門の職業人等による講習会を実施することで、スペシャリストとしての意識が高まり、職業観を育む機会をつくることができた。</p> <p>○在来作物や地元食材への関心が高まり、それらを各種弁当調理や食品開発、料理コンクール等に活用しようとする意識の高揚が見られ、食文化の理解や郷土愛を育むことができた。</p> <p>○看護クラブとして、生徒全員で布遊具を作製して活用することで、生徒たちの活動のモチベーションにつながった。</p> <p>○複数の学科で取り組んでいる事業について、2学科または3学科間の交流・連携を深められるように工夫して実施した。</p> <p>○全生徒、全職員が参加することで学校全体の取り組みになった。</p> <p>△地域連携事業の推進が教育効果を高めている反面、教員の多忙化に繋がっている。</p> <p>○地域との連携事業に関しては、どの事業も住民からは大変好評を得ている。一つの地域に丁寧に関わることができることは、住民、生徒両者にとって幸せなことであり、町の財産である。他には類を見ない事業であり、今後も生徒の力をもらいたい。</p> <p>○ボランティアや単身高齢者宅訪問の活動が、患者や介護施設利用者が「生活者」であることの理解につながり、それが実習における学びに生きていることが窺える。</p>
			 <p>近江地区子ども料理教室</p>



学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
12	寒河江工業	<p><b>[小学生を対象としたプログラミング教室の実施]</b></p> <p>プログラミングを体験する機会の少ない地域の小学生に向け、一人一台の raspberrypiを使用したプログラミング教室を実施した。</p> <p>情報技術科の生徒がアシスタントを行うことで、生徒自身のプログラミング能力とコミュニケーション能力を向上させた。また、地域に根ざした活動を通して、地元を愛し地域社会へ貢献する態度を養った。</p> <p>実施内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>scratchによるプログラミング体験 <ol style="list-style-type: none"> <li>LEDの点灯及び点滅等の制御</li> <li>ドローンの動作制御（スマートフォンによる制御も実施）</li> </ol> </li> <li>業務用ドローンの操作体験</li> </ol>	<p>○地元の小学生との交流を通してものづくりの楽しさを伝え、地域社会に貢献することができた。</p> <p>○小学生に教えることで、普段の学習の理解を深め、プログラミング技術の定着や確認を行うことができた。</p> <p>△参加者とのコミュニケーションスキルや、理解してもらえるように教えるプレゼンテーションスキルの更なる向上が求められる。</p> <p>○地域との関わりを大切にし、ものづくり・人づくりを通して地域に貢献している。</p> <p>△事業を行った結果に対して評価を行い、手段をどうするか検討を行ってほしい。</p> <p>△対象を小学生だけではなく、中学生にも実施してみてもどうか。</p>
		 <p>小学生対象プログラミング教室</p>	
13	谷 地	<p><b>[谷地高普通科リノベート事業]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>谷地高校の将来を思い描くワークショップ <ol style="list-style-type: none"> <li>谷地高の良さを語り合う活動</li> <li>谷地高の将来像を語り合う活動</li> </ol> </li> <li>谷地高校の目指す学校像・将来像についてのワークショップ <ol style="list-style-type: none"> <li>谷地高の目指す学校像・将来像を語り合う活動</li> <li>どんな教育課程が(1)を実現するかを話し合う活動</li> <li>個人の振り返り</li> <li>全体の振り返り</li> </ol> </li> </ol>	<p>○生徒と教員が一堂に会し、谷地高校の良さや将来像について、時間をかけてじっくり話し合い、学校づくりに積極的に参画しようとする意欲を高めた。また、新たな教育課程編成に向けて考える機会となり、特に教員個々が具体的なヒントを得た。</p> <p>△谷地高校らしい特色ある普通科の在り方についてたくさんの素材を得たが、議論が収束するまでには至らず、具体策はその後の議論に持ち越された。</p> <p>○学校評議員会の場で、生徒と教員が一緒に話し合ったことを高く評価する意見が出された。</p> <p>△谷地高普通科の特色として発信できる案を期待する声が上がっており、これに応えることのできる具体案を検討する必要がある。</p>
		 <p>谷地高校の将来像を語り合うワークショップ</p>	